

喜連環濠地区まちづくり構想

平成 27 年 9 月 14 日 喜連環濠地区まちづくり研究会



この構想に込めた想い

「喜連環濠地区」は大阪における初期の渡来人の定住地であり、地区では古代のムラが中世の環濠集落、近世の惣村へと発展してきた歴史的な遺跡群が多く発掘されています。今では、地区に100年を超える寺・蔵・屋敷からなる歴史的な街並みが、時代の波に耐えつつ過去を物語るがごとく存続しています。一方、数百年を住民の手で守られてきた地蔵盆、古式豊かな修験道の行事など、地区の伝統文化が現在も息づいています。

この「喜連環濠地区」と周辺を含むまちの歴史的な流れや古くからのまちの行事等を踏まえ、歴史の香り豊かな綺麗な街並みや伝統文化を次世代に継承し、地区住民のまちへの思い、誇りを集約した「まちづくり構想」を策定しました。

平成 27 年 9 月
喜連環濠地区まちづくり研究会

喜連環濠地区の歴史（概略）

本居宣長（もとおりのりなが）は、「古事記伝（こじきでん）」で、喜連は久禮（くれ）が訛った地名で、万葉集に載る伎人郷（くれひとさと）は、喜連のことであるとしています。伎人（くれひと）とは大陸文化をもたらした渡来人（とらいじん）のことです。縄文時代、海面は今よりも高く、喜連は古代河内湾南岸の良港で、大陸からの玄関港でした。古墳時代後期には、住吉津から喜連を経て飛鳥につながる磯齒津路（しはつみち）（現在の長居公園通沿い）がありました。

奈良時代には、喜連の馬史国人（うまのふひとくにひと）が詠んだ「にほ鳥の於吉奈我河（おきなががわ）は絶えずとも 君に語らむ 言尽きめやも」（万葉集巻二十）の歌があります。息長河は古代氏族息長氏により、現長居公園通沿いに掘削された喜連西一帯～現今川まで続く河と思われる。

中世、喜連全体は如願寺を主館とした深さ 3m の環濠（堀）で囲んだ喜連城となり、南北朝の戦乱、応仁の乱、大阪夏の陣を経て、袋小路の多い街並みが残りました。

江戸時代には、環濠は農業用水路に変わり、中高野街道沿いには酒・油・薬などの地場産業が生まれ、今に残る歴史的建造物である寺社や古民家が建ち、また、環濠の六出入口には地蔵尊が祀られました。

戦後、喜連は周辺に地下鉄や大規模商業施設ができ、環濠も下水道整備され、生活しやすいまちになりました。



昭和 17 年（1942）航空写真（大阪市所有）

喜連環濠地区の現状と課題

歴史が継承されているまち

喜連環濠地区は、中世に造られた「環濠」内の旧集落を中心にした地区をさしています。ここには今なお 100 年以上前に建てられた家や塀・門など歴史のある建築物が多数残っています(1)。この地区の成り立ち、発展に深く関わっている 1 社 6 寺は、今も地域の文化的支柱です(2)。地区の出入口に鎮座していた地蔵が今も引き継がれています(3)。ここでは、杉山講、七日盆、地蔵盆、しめ縄づくりなどの伝統行事が、地区住民など関係者によって営まれています。また、地区の歴史を研究している「喜連村史の会」が活発に調査活動を行っており、まちの歴史が新たに紐解かれつつあります。

大阪市内の中でも特に古さを誇るまちの歴史は、今日も継承されており、これらが醸し出す有形・無形の「喜連環濠地区らしさ」を今後も引き継いでいく必要があります。

「喜連環濠地区らしさ」の共有

平野区は、昭和 30 年(1955)から 50 年(1975)までの 20 年間に、人口が約 6 万人から 20 万人へと急増しました。これに伴って農地が宅地化され、喜連環濠地区周辺でも住宅建設が進みました。農業用水などに活用されていた環濠もその役割を終え、昭和 36 年(1961)に埋め立てられ、下水道が整備され、道路が造られました。環濠地区内の住宅の更新も進みました。住宅は建てられた時代によって、建て方やデザイン、材質・色調が異なり、多様な住宅が増えました。今日では、駅に近くかつ静かで落ち着いたまちとして注目され、住宅の建替え、新築がすすんでいます。

新しいものがまちの風景と調和し、「喜連環濠地区らしさ」を継承していくために、「喜連環濠地区」らしさ、まちに残されている歴史を住民共有の財産としていくことが大切になっています。

新たなコミュニティ交流の場づくり

それぞれの地域が地域の特性を活かして、まちづくり、コミュニティづくりをすすめる時代となりました。住民の豊かな交流や、関わりあいが、防犯や防災にも役立ち、地域の暮らしやすさを高めます。「喜連環濠地区」は、連合町会としては 2 つの地域に分かれますが、伝統行事などを通じて人のつながり、協力体制ができています。昔から住んでいる人と新たに転入してきた人、子どもから高齢者まで、ここに暮らす人が、学校や事業所、この地域と関わりをもっていた人々と一緒に、この地域が引き継いできた地域ならではの魅力を活用しながら、安全で安心できる地域をつくっていくことが大切です。そのために、若い人の活力や年配者の豊かな経験を活かすまちづくりが大切になっています。

「おもてなし」の工夫

市内でもこれだけの寺社や地蔵堂、古い建物が集積して残っている地域は少なく、落ち着いたたたずまい、ゆったりとした空気感が人の心に染み入る場となっています。

近年、大阪市内に残された喜連環濠地区の歴史やまちに興味をもつ多様な世代の人々が、この地区に訪れるようになってきました。大阪市などのまち歩きイベントに定期的に協力しており、それをきっかけにして、小グループや個人的に訪れる人も見受けられます。平野区役所や地域の有志、関係者と連携して、地域資源への二次元コードの掲示によるホームページの情報提供と案内板づくりに取り組みました。

私たちのまちのこの趣ある風情をここに暮らす私たちが誇りに思い、愛着を高め、魅力を発信していくことが大切になっています。

図 喜連環濠地区と地域の歴史的財産



「喜連環濠地区」とは、概ね環濠跡すなわち環濠で囲まれていた地区(旧喜連村)をさしています。



3 : 「喜連環濠地区」の出入口に祀られている6つの地蔵



① 北口地蔵

1530年代集落の北出入口に祀られ、1877年に本堂が再建される。堂前には中高野街道があり、雨宿りとしても利用。1955年頃まで堂北側の環濠には「松山橋」があった。



② 西口地蔵

集落の西出入口に祀られ、堂内には首地藏や「明治15年西金若中」銘の香炉がある。昔は葬礼や嫁入りの行列が堂前の道「中小路」を進行。堂西側には石垣や石櫓が埋まっている。



③ 南口地蔵

集落の南出入口に祀られていたが、環濠の埋立てに伴い、現在地に移設。堂内には本尊の他2体の石仏があり、旧町割り「南町(みなんじょ)」の有志の講で護持されてきた。



④ 馬倉地蔵

戦前は馬場先橋の南側にあり、環濠の埋め立ての為、現在は旧会所跡上にある。馬倉の名からここが馬繋ぎ場で、権原神社鳥居までの幅4間、長さ80間の道が馬場であった。



⑤ 東口地蔵

集落の東出入口に祀られ、堂内の本尊両脇に小石仏が2体ある。堂の西側には大神宮常夜灯(1847年建立)現在、権原神社の南入口に移設され、伊勢参りの講の講所と推断。



⑥ 尻矢口地蔵

集落の東北(鬼門)出入口に祀られ、尻矢口とは旧喜連城(現如願寺)の後方矢口である。堂の東の大櫓や北西の大櫓(喜連幼稚園庭)の古木が今もかつての環濠風景を偲ばせる。

1：100年以上前に建てられた農家造りの屋敷や蔵、塀、門などの建築物
19家によって、修繕や改修をしながら、今日なお継承されています。



a 長橋家
江戸時代中期築

2：人々の暮らしと地区の発展・移り変わりを見守ってきた社寺
古代から近世までに7社寺が建立され、今なお、伝統行事、学びと癒しの集いなど多様な場の中核となっています。



1 楯原神社

古代喜連北西の字楯原にあった式内社。明治40年村の全社を統廃合し村社となった氏神天神社を「許可を得て楯原神社と」改称。奥殿は喜連最古の1620年代築(大阪市指定文化財)。絵馬堂の釣鐘が神仏習合時代を伝える。



b 中谷(政)家
明治時代築



c 中谷(和)家
明治二十年(1887)築



d 中谷(善)家
嘉永五年(1852)築



e 佐々木(高)家
安永七年(1776)築



f 服部家
文政五年(1823)築



g 浅井家
江戸時代後期築



1 真言宗御室派 霊峰山 如願寺

寺伝では元は580年代聖徳太子創建の喜連寺。善法寺等7寺を擁す大伽藍だった。817年弘法大師が衰退を嘆き再建と伝える。大棟の鍬鉾、鍬置(兜形)の屋根は中世喜連城を想起させる。



2 浄土真宗大谷派 中野山 寶圓寺

15世紀末久宝寺の慈願寺法円に帰依した西喜連村惣道場が前身。1630年白川郷中野照蓮寺の寛能を招き寺院化。耐震化解体修復で現本堂が1730年築と判明。



h 杉本家
天保七年(1836)築



i 佐々木(昌)家
江戸時代天保期築



j 辻江(昌)家
明治時代築



3 浄土真宗大谷派 空楽山 専稱寺

1571年僧惠光により本願寺末の道場開創。信玄公家臣の沼田重光が出家して空楽坊行稱と号し、山号もそれに由来。淀川区にある空楽寺の縁起を記す巻物を伝持している。



4 融通念仏宗 南源院 遍照山 法明寺

1347年融通念仏宗中興の祖法明上人が創建。江戸時代は中山本で、壁の5本線がその格式を示す。平成26年下別時間連仏画群として、銅喚鐘等13点が大阪市有形文化財に指定。



k 後藤家
明治時代築



l 森本家
江戸時代天保期築



m 宮川家
江戸時代天保期築



5 融通念仏宗 一向山 専念寺

1597年に創建され、道善上人が開祖。山号は経文「一向専念無量寿佛」による。寺には服部規氏奉納の「大般若経」と十六善神図があり、毎年11月3日に大般若経転読法要を実施する。



6 浄土真宗本願寺派 十方山 法性寺

1520年代藤本善之丞玄了道場創建。宝永地震後藤本傳右衛門が再建し寺院化。江戸中期からの寺子屋を母体に明治5年学制発布でここに喜連小学校が誕生。廃絶した寶林寺の本尊・喚鐘を伝持。



n 増池家
江戸時代後期築



o 辻江(田)家
文化八年(1811)築



p 辻江(元)家
江戸時代後期築



q 奥野家
江戸時代後期築



r 木村家
明治二十二年(1889)以前築



s 小林家
大正元年(1912)築

喜連環濠地区まちづくり憲章

「喜連環濠地区」のこれからのまちづくりにおいて、私たちが大切にしていけるべき理念を「まちづくり憲章」として掲げます。

心和む喜連のまちを愛し、魅力あるまちづくりを進めます。

喜連環濠地区の景観をまもり、趣あるまちにします。

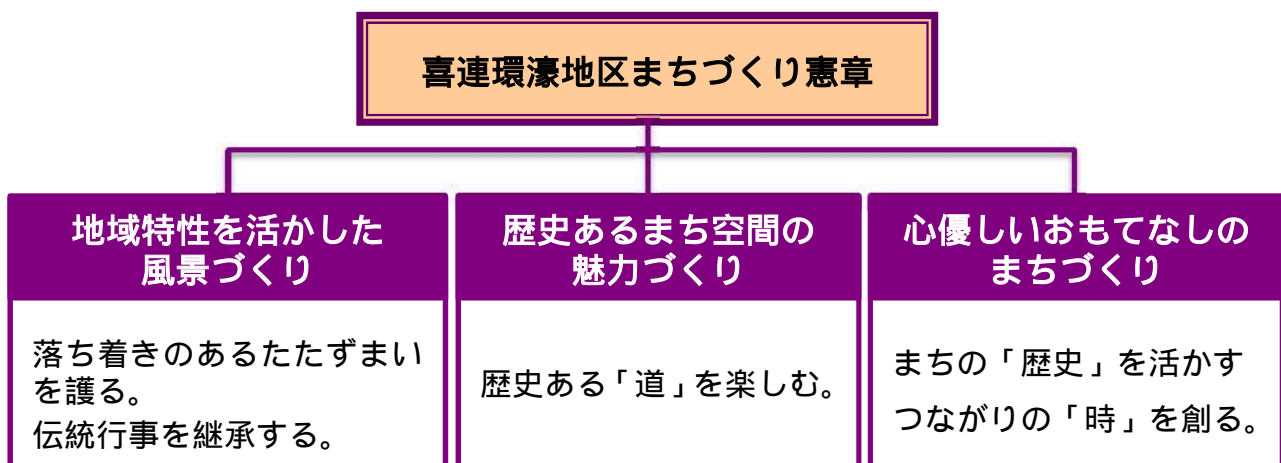
喜連環濠地区で催されるさまざまな「行事」を盛り立て、継承します。

喜連環濠地区を訪れる人々とのあたたかい「交流」をひろめ、深めます。

喜連のまちで育まれてきた温厚な「絆」を大切にし、次世代につなげます。

喜連環濠地区のまちづくりの方向性

「喜連環濠地区まちづくり憲章」を実現するため、このまちづくり構想では、『地域特性を活かした風景づくり』『歴史あるまち空間の魅力づくり』『心優しいおもてなしのまちづくり』の3つについて、まちづくりの方向性を定めます。



その1 地域特性を活かした風景づくり

喜連環濠地区も環濠が道路になり、周辺地域の開発とともに古い建物が建て替わり、まちなみが変わってきました。近年、さらに住宅の建替えが進んでいます。喜連環濠地区を訪れる人は、歴史的な建物やそれが醸し出すまちなみが印象的だと言われます。私たちにとっても、この風景は誇りです。喜連環濠地区らしい落ち着きあるたたずまいと伝統行事の映えるまちなみ、人の営みを継承しつつ、新しいものとの融合した魅力が高まっていくよう、関係するみんなの知恵と工夫を集め、喜連環濠地区らしい風景づくりに取り組みましょう。

落ち着きのあるたたずまいを護る

喜連環濠地区の風景にある「落ち着き」「潤い」「趣」をこれからも引継ぐとともに、今後のまちづくりの中で発展させていくために、喜連環濠地区らしい風景・たたずまいにマッチする和モダンな建築物づくりに配慮するため、次の風景づくりガイドラインを大切にしましょう。

風景づくりガイドライン

喜連環濠地区の歴史ある建物の特徴を大切にし、**外観の形状や色づかい、素材感が調和するように工夫**しよう。

駐車場・付帯施設は目立たないように**配置やしつらえに工夫**しよう。

門・塀を設けない場合は、道路との境界に植栽帯を設け、**まちに潤いを与えるよう配慮**しよう。

建物は、道路に対して**圧迫感がない位置、高さに抑えるよう配慮**しよう。

特に楯原神社参道、中高野街道沿い、都市景観資源（楯原神社、如願寺、6地蔵尊、旧屋敷小路）周辺では、**風景のつながりを大切に**しよう。

工夫例1 新築時の工夫



歴史ある建物の外観・色づかい・素材感を継承
(奈良県橿原市)



(岸和田市本町)



ベランダ壁の木板張りがアクセント
になっている住宅(京都市伏見区)

工夫例2 目立たせない工夫



室外機を木製格子で隠す
(滋賀県近江八幡市)



室外機を外壁色に着色し、木製格子で隠す
(京都市下京区修徳地区)

工夫例3 駐車スペースでの工夫



シャッターなど出入口のデザインや色づかいなどに配慮(京都市伏見区)



背が低い瓦塀で通りの風景に連続性を生み出す(京都市中京区姉小路地区)



(滋賀県近江八幡市)

工夫例4 植栽による潤いづくりの例



植木鉢を格子状の枠で囲い整理(京都市中京区姉小路地区)



角地を活用した植栽(奈良県橿原市今井町)



(京都市修徳地区)

工夫例5 水辺を連想させる工夫例



水辺を連想させる石・石板と植栽による外構デザイン(奈良県橿原市)



(鶴見区茨田北地域)

工夫例6 圧迫感を緩和する工夫



外壁の色を上下階で塗り分け、下屋や塀を設ける(枚方市)



(京都市下京区修徳地区)



建物本体と異なる色の塀や植栽を道路に近い部分に設ける(京都市下京区修徳地区)

伝統行事を継承する

寺社、地蔵尊を軸に取組まれている伝統行事は、喜連環濠地区の風景であり、行事を通して、人と人、人とまちがつながる場です。伝統行事に込められた人や暮らしを守り育む心をふりかえり、新たに転入して来られた人・子どもが地域とのつながりをつくるきっかけとなるよう、参加しやすい場づくりを進めましょう。

❖ とうろうまつり（灯火の夕べ）

七日盆に提灯や灯ろうが飾られている伝統にちなみ、地蔵盆など8月の伝統行事に合わせて、みんなの手作り灯ろうをまちに飾り、参加する人の輪を広げましょう。

手法と工夫例

- ・寺社、町会、団体などと連携、運営ボランティア募集
- ・灯ろうづくりワークショップの開催



第1回喜連環灯火の夕べの様子(平成27年8月15日1社5寺にて実施)

その他の取組みのアイデア（住民アンケート調査回答から）

七夕祭りやお月見など、季節行事をみんなで楽しむ。
地蔵尊のスタンプラリーなど、子どもが地域を知り、親しめる行事をして地蔵盆を盛り上げる。

主な伝統行事

1月1日	初詣
1月15日	とんど焼き
2月3日	節分厄除
3月下旬頃	春ごと
7月4・5日	夏祭り



8月7日	七日盆・千日参り
8月23・24日	地蔵盆



10月14・15日	秋祭り
12月23日	しめ縄づくり奉納



12月31日	除夜祭
--------	-----

その2 歴史あるまち空間の魅力づくり

喜連環濠地区らしさは、歴史とともにあります。それは、中高野街道や社寺、地蔵堂、古い屋敷などとして、まちの中に息づいています。今はなき環濠やその機能を変えた馬場道もここに長らく暮らす人の思い出として生きています。現在の暮らしをより豊かに、魅力的なものとしていくために、まちの物語を大切にしたい公共空間づくりに取り組みましょう。また、まち全体が安心して過ごせるところとなるよう、一人ひとりがマナーや交通ルールを守り、防犯・防災意識を高めましょう。

歴史ある「道」を楽しむ

❖ 馬場道の再生

楯原神社の鳥居と緑に連なり、地区の中で一番広い道路で、流鏝馬が行われた伝統がある馬場道をまちのシンボルとなる道路空間となるよう、行政との連携をはかりましょう。

手法と工夫例

- ・楯原神社の緑につらなるラインの明示(できれば歩行空間の石板舗装化)
- ・地道風に砂利を洗い出した土色の舗装化
- ・街灯デザインの工夫
- ・行政の道路整備との連携

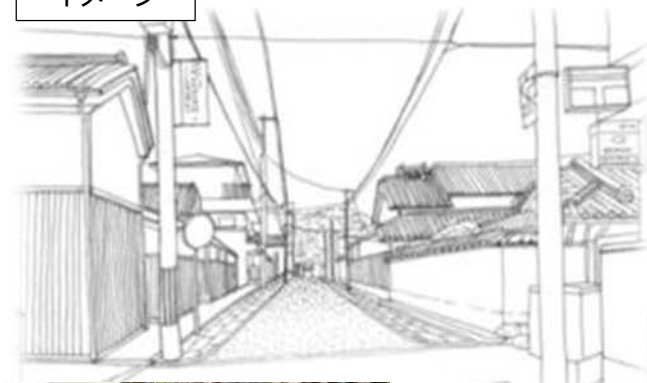
❖ 環濠プロムナードづくり

細く曲がりくねった形状や路肩の石などにその名残がある環濠。これをみんなの知恵と工夫で、現代風に魅力ある空間に再生していきましょう。

手法と工夫例

- ・環濠跡の道路面のカラー舗装化
- ・喜連小北側壁面を活用したプロムナードのシンボルづくり
- ・道路に面して石積み(風)植栽升に花緑をあしらうなど、家と道路の間の空間演出

イメージ



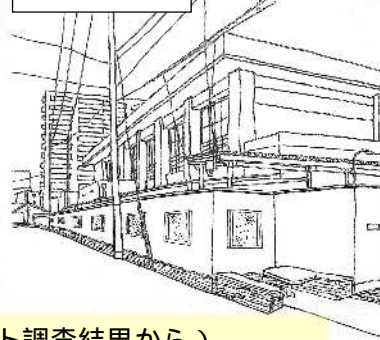
中央部分はアスファルト舗装を洗い出し仕上げ、路肩は石張り
(岸和田市紀州街道)

イメージ A



古い屋敷の塀のデザインを模して板張り、真壁風の塗装による修景例
児童の作品を展示する場所を設置

イメージ B



コンクリートの目地を埋めて白に塗装、脚部は環濠の護岸をイメージした石貼による修景例
児童によるイメージ作品掲示

その他の取り組みのアイデア (住民アンケート調査結果から)

環濠のあった道路に「水色」「水玉」のデザインをところどころに施す
北口地蔵堂のようなくつろげるベンチ

その3 心優しいおもてなしのまちづくり

喜連環濠地区には、多くの人々の心に残る風景があります。これが人を惹きつけ、人との交流を生み出す源となっています。古代からそうであったように、さまざまな人・地域・文化との交流を楽しむまちづくりを進めていきましょう。

まちの「歴史」を活かす

「喜連村史の会」の活動により、喜連のまちに眠っていた、さまざまな地域の歴史が紐解かれ、それらが私たちに大きな感動と誇りを与えています。このような地区の歴史・文化をここに暮らす人、次世代に知ってもらえる機会を広げていきましょう。そして、地域の伝統行事や伝承をより多くの人とともに継承し、さらなるまちの魅力づくりにつなげましょう。

❖ まちの案内板づくり（実施）

まちの歴史を伝承する地域資源を紹介し、より多くの人にこのまちの歴史を知ってもらいましょう。

- ・お寺、地蔵堂の由緒
- ・中高野街道の道標の復元
- ・古い民家の紹介
- ・小学校、幼稚園と地域の歴史
- ・五十間樋碑の設置



❖ まちの歴史・文化の伝承

まちと歴史を紹介するマップや子ども向け解説パンフレットなどをつくり、喜連環濠地区のよさを次代に引き継ぐために、子どもや転入者、来訪者に伝えましょう。

手法と工夫

- ・大学や小学校との連携
- ・語り部の育成
- ・学びの場づくり（資料展示、お寺などでのサロン・ワークショップ開催）

その他の取組みのアイデア（住民アンケート調査結果から）

昔ながらの名物（食べ物、料理、店、野菜など）を発掘、継承

つながりの「時」を創る

身近な場所で、喜連環濠地区の「まちの趣」を楽しみながら、子ども達の記憶に残るような感動を共有する場をみんなの力で創り、継続していきましょう。

❖ 喜連音楽祭（実施）

時期：毎年 10 月頃

場所：喜連小学校・喜連幼稚園・如願寺

喜連のまちの雰囲気に関わり合い音楽をみんなで楽しもうと、平成 23 年に企画・開始しました。プロの音楽家や喜連中学校奏楽部などに出演していただき、子ども達との喜び合う機会にしましょう。



❖ 子ども餅つき大会（実施）

時期：毎年 2 月下旬か 3 月上旬

場所：楯原神社

喜連には、過去に相撲「喜連場所」がありました。平成 24 年から地区内に「東関部屋」が大阪場所宿舎を構えられたのを契機に開始しました。餅つきを通して、力士と子ども達が交流しながら、多世代が集う場としていきましょう。



喜連環濠地区のまちづくり構想の実現に向けて

このまちづくり構想を実現していくためには、ここに住んでいる一人ひとりがわがまちに誇りをもって、取組みに参加し、みんなと協力しながら、つくりあげていくことが大切です。今後は、次のようなイメージで、取組みを進めていきましょう。

落ち着きのあるたたずまいを護る

個人・建物所有者、住宅建設業者は、「風景づくりガイドライン」に配慮し、喜連環濠地区らしい風景を守り、育てていきましょう。

伝統行事を継承する

個人、地域、関係機関が協力しあって、より多くの人に参加しやすい行事づくりに取組みましょう。

歴史ある「道」を楽しむ

個人、建物所有者、地域が行政と連携して、まちの更新などに合わせて構想の実現をめざしましょう。

まちの「歴史」を活かす

グループ、地域が関係機関や学校、行政と連携して、実践の場づくりをすすめましょう。

つながりの「時」を創る

個人、地域の参加の輪を広げ、新しいアイデアを取り入れて、より充実したものに育てましょう。

喜連環濠地区のまちづくり研究会のあゆみ

平成 22 年度

喜連環濠地区まちづくり研究会 発足
大阪市まちづくり活動支援制度の活用
喜連環濠地区内の道路調査
第 1 回見学会（以後、毎年実施）
ニュース創刊号 発行（以後、毎年発行）

平成 25 年度

喜連環濠地区らしさ（遺伝子）の検討
喜連環濠地区案内板構想の検討
第 1 回子ども餅つき大会（以後、毎年実施）

平成 23 年度

喜連の伝統行事地蔵盆についての意見交換
第 1 回喜連音楽祭（以後、毎年実施）
近畿大学生徒のまち歩き
地域の課題と取組みの方向性のまとめ

平成 26 年度

喜連環濠地区案内板構想実現のための検討
21 か所にて案内板づくり
道標の復元
憲章案・ガイドライン案の作成

平成 24 年度

喜連環濠地区建物・まちなみ調査
喜連環濠地区の案内の検討

平成 27 年度

「喜連散策マップ」の作成
まちなみ・まちづくりアンケート調査実施
第 1 回灯火の夕べ 実施（毎年実施予定）
喜連環濠地区まちづくり構想の作成